

特集 英語が苦手な生徒への支援

「音読」と「書く」を大切にして つまずく生徒を支援

河原木 かつ子

(青森県八戸市立白山台中学校)

1. はじめに

小学校外国語活動では、子どもたちは「聞く」「話す」の活動を中心に、英語の単語や文を聞いたり、話したりしながら、簡単なやり取りをし、また、クラスやグループの中で英語を使ってのゲームにも取り組んでいる。そのため、外国語活動を楽しんでいた子どもが多いと思われる。

一方、中学校の英語科では、「聞く」「話す」に、「読む」「書く」の学習が加わり、さらに「正確さ」が求められることになる。生徒は、その求められるものの質や量の違いに、とまどうことが予想される。このとまどいを予想して授業を進めないと、生徒はつまずき、意欲が低下することも考えられる。

「読む」「書く」を習得するためには、継続した努力が必要である。例えば、中学校での文字の導入時について考えると、小学校では扱っていなかった「読む」「書く」は、生徒にとっては魅力的だ。外国語活動で、ある程度の英語を聞いたり、伝えたいことを英語で言えるようになったと感じている生徒たちは、今度は英語を読んだり書いたりできるようになりたいと望んでいるであろう。これらが簡単にできるようになると考えている生徒もいるかもしれない。しかし、彼らは学習してみると、日本語とは違い、アルファベットを覚えたからといって、すぐに単語が読めるようになるわけでも、書けるようになるわけでもないということがわかってくる。やはり、文字と音を結びつけて繰り返し発音する中で、その単語や英文が読めるようになり、何度も書く練習をして、その単語や英文を書けるようになるのである。

生徒が、意欲をもってその努力ができるようにな

るまで、時間をかけ、工夫して指導する必要があると考えている。小学校外国語活動で音声での指導はできていると思って、すぐに覚えて書けるようになることを生徒に求めると、生徒はとまどい、つまずき、意欲が低下するのではないかと危惧する。

2. 予想されるつまずきへの指導・支援

(1) つまずきへの指導・支援の基本理念

生徒は基本的に「自分を認めてほしい」という思いを持っている。そのため、できるだけ授業前に家庭学習(宿題)の点検をし、努力を評価し、学習意欲を継続させるように努めている。家庭学習をやれなかった生徒にはやれなかった課題を学校でやるようにしむけ、やれるという自信をもてるように支援する。継続した努力が「できる」につながることを理解させる。

指導者は、生徒がどの場面で理解できずにとまどうのか、どの場面で進めなくなってしまうのか、意欲を低下させてしまうのか等を予測し、指導計画を立てる際に手立てを考えておく必要がある。

(2) 文字と音とのマッチング

入門期に小学校で学習したローマ字(訓令式)と中学校英語のローマ字(ヘボン式)との違いにとまどう生徒を多く目にしてきた。これが、入門期の最初のつまずきであると考えている。shi, chi, tsu, fu, cha, jaなどを定着させる手立てとして、日本語が英語になっているsushi, tofuや地名Hachinohe, Osaka, Hokkaidoなどを繰り返し練習させ、書けるように励まし、苦手意識のある生徒には練習に寄り添い、小テストやコンテストで何度も確認をしながら、1学年の5月中にはヘボン式ローマ字が書けるように支援する。その後

は、NEW CROWN(以下NC)のSOUNDSでフォニックスの規則性が身に付くように指導する。文字と音を繰り返し結びつける中で規則性を理解し、単語を発音する中で読んだり書いたりできるようになるのである。英語学習において、英語が読めることは大切である。それは、英語が読めないと、書けるようになるのは難しいと考えるからである。

(3) 音読の継続

音読を継続して取り組むこと、すなわち、読みを鍛えることは、英語学習においてはとても大切である。生徒が文字を見て発音する機会を多くもつことが必要で、単語や基本文の読みをゲームとして授業の中に設定するとよい。ビンゴゲーム形式でやると楽しみながら取り組むことができる(資料1)。

また、NCのGETの本文や対話文は暗記を目標に音読練習をさせている。生徒の能力に応じてステップを踏んで読めるように、ゴールには暗記を掲げ、右のような本文のワークシートを使っている(資料2)。つまずく生徒も自分のレベルに応じて進めることができるし、本文を自分が言えるという成就感をもつことができる。繰り返していくうちに、レベルを上げて、暗記レベルまで達する生徒が増えてくる。「わかった」「できた」の喜びが英語学習の意欲につながる信じている。

(4) 基礎基本は語順

NCの各LessonのGETで基本文の定着を図り、Skill-gettingをめざしている。Drillで基本文の練習をするとき、英語と日本語の語順が異なるので生徒はつまずくことが多い。英語文法の基礎基本は「語順」と考える。そこで、常に生徒に語順を意識させるようにしている。「語順シート」なるものを提示し、語順を意識して英文を話したり、書いたりできるようにしている。Word Cornerで語彙を補充し、Skill-using活動へとつなげ、自己表現の幅を広げることができる(資料3)。

(5) 基礎基本を精選して「書く」活動

授業で学習した本文から基礎基本となる文を精選し、音読しながら家庭でノートに「書く」ことを課題としている。1年生から継続しているので学年が進むにつれて抵抗感がなくなってくる。もちろん、家庭学習はチェックし、評価する。Lessonの終わ

りには、単元テストをし、基礎基本の定着を図る。

3. おわりに

基礎基本を精選し、「音読」と「書く」を大切にして、英語学習を進めていけば、つまずく生徒を救うことができ、さらに「できる」という成就感を味わわせることができると確信している。

資料1



資料2

Lesson 7 Good Presentations ~GET Part 1~ (練習P.7)

[Level A] ★★★★★
This table shows some high mountains around the world.
Mt Kilimanjaro is higher than Mt Fuji.
It is the highest mountain in Africa.
Can you name the highest mountain on each continent?

[Level B] ★★★★★
This table (s) some (h) mountains (a) the world.
Mt Kilimanjaro is (h) (t) Mt Fuji.
It is (t) (h) mountain in Africa.
Can you (n) the (h) mountain on (e) continent?

[Level C] ★★★★★
This table () some () mountains () the world.
Mt Kilimanjaro is () () Mt Fuji.
It is () () mountain in Africa.
Can you () the () mountain on () continent?

[Level D] ★★★★★
この表は世界中のいくつかの高い山を指しています。キリマンジャロ山は富士山より高いです。それはアフリカで一番高い山です。あなたは各大陸で一番高い山の名前を挙げることができますか。

資料3

だれが/は 【主語 S】	～する 【動詞 V】	だれに 【目的語 O】	何を 【目的語 O】	どこに 【副詞】	どこで 【場所】	いつ 【時】
I	will	give show write send teach buy make sing	you him her Ken Emi you him her	a present my album a letter an e-mail math a watch lunch a sing		